

2023年10月16日 地域観光シンポジウム

～地域観光産業を高生産性で高所得産業に！～

閉会挨拶

運輸総合研究所理事長の佐藤です。お疲れのところ恐縮ですが、閉会に当たり一言申し上げます。

まず、米国から来日し基調講演をしていただいたセントラルフロリダ大学の原准教授、パネルディスカッションにご登壇いただいた一橋大学の山内名誉教授、日本共創プラットフォームの富山社長、一橋大学の西野教授、じゃらんリサーチセンターの沢登センター長、日本交通公社の山田理事、長時間にわたりご参加いただいた大勢の視聴者の皆様、そして日頃より当研究所の活動をご支援いただいている日本財団に御礼を申し上げます。

当研究所が昨年度から実施してまいりました「地域観光産業の基盤強化・事業革新に関する調査研究」では、本日のご登壇者の皆様を中心とした検討委員会を設置して議論を重ね、さる7月31日に提言を取りまとめて公表したところがあります。本日の地域観光シンポジウム「地域観光産業を高生産性で高所得産業に！」は、検討委員会提言の報告の場でもありました。

この検討委員会において、昨年度は当研究所の主席研究員として、そして今年度は特任研究員として、終始、議論をリードしたのが、本日も登壇された城福健

陽さんです。

私は、運輸省・国土交通省時代に城福さんと2度一緒に仕事をいたしました。1度目は、1990年代後半に運輸事業の需給調整規制廃止の関係で、2度目は、2010年代前半に関西空港・伊丹空港のコンセッションの関係でしたが、その時に痛切に感じた城福さんの凄いところは「決してぶれない」ということでありました。

城福さんには、今般の「地域観光産業の基盤強化・事業革新に関する検討委員会」においても、全く「ぶれずに」エッジの立った提言を取りまとめていただきましたが、同時に並行して、「地域交通産業の基盤強化・事業革新に関する検討委員会」においても、さる9月14日の提言公表まで議論をリードしていただきました。この場をお借りして、改めて城福さんに心より敬意を表したいと思えます。

運輸総研といたしましては、地域観光産業の生産性の向上や危機的状況にある地域交通産業の革新について、今後とも引き続き調査研究を精力的に進めるとともに、本日のようなシンポジウムやセミナーの場を活用して、皆様と一緒に考察を深めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上です。この後、今後の予定のお知らせがあります。また、アンケ

ートへのご協力も、よろしくお願いいたします。

本日は、最後までご参加いただき、誠にありがとうございました。